

講義名	経営情報分析		
担当教員	木村 敬夫		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限	授業形態	講義
履修開始年次	3年生	単位数	2
備考			

主題と概要

経営情報分析は、学科目として「既存の枠組」みは存在しない。講義の目的は、「企業」（会社）の経済的意思決定（経済的資源配分）に求められる経営事象に対して合理的な判断を行う方法を学ぶ。受講生は、「課題」として配布される所与の経営事象に体现したデータから、各自が経営事象を判断する資料を作成し、結論を下すことを講義目標とする。

経営情報分析の講義は、企業の事業活動に関するデータ、数値資料（財務・事業指標、例えば、販売量・生産量、売上高、固定費・変動費、店舗数、営業利益、経常利益、総資本・株主資本、有利子負債等）に対して、「表計算」（MS-EXCEL）を利用し、論理・財務・統計等の関数〔関数組合〕、線形計画、What-If分析、分析ツール、ソルバー等を使用して数理的な処理を行い、データを分析し、予想される数値の資料を作成し、「経済的」結論を下す方法〔事業（事業の業合体が会社）成果の計画（予測）・測定：分析、評価（検証）〕を学ぶ。

到達目標

企業の事業活動に関連して（定量・定性）「情報」（資料）、を主に、表計算（MS-Excel）の統計・財務・論理等の関数、分析ツール、ソルバー、What-Ifを使用して数理的な処理を行い、回帰分析等を行い、加工し、評価し、企業の次年度予測値（見積損益計算書等に採約）等の資料を作成し、これに一定の結論を下す。

提出課題

講義時間内で毎回の課題（13から14回）を予定している。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

登壇講義前半に講評する。

評価の基準

出席（50％）と課題提出（50％）で評価する。但し、1）出席と2）提出回数双方を2/3を超えなければ単位認定はできない。また、各提出課題は、講義中以外は認めない。

履修にあたっての注意・助言他

学修には経営、財務、会計、統計、表計算（MS-EXCEL）の知識が前提となっている。単に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。毎年、半数以上の履修者が途中で放棄する。自ら、作業などをやらなければ結果はでないと考えてもらいたい。

教科書					
.配布プリント.					

プリント資料及び参考文献

阿部圭司『Excelで学ぶ会社の数字を知って伸ばす本・統計解析』ソシム
相澤裕介『統計処理に使うExcel2016活用法』カッツシステム
今里健一郎・森田博著『Excelでここまでできる統計解析』日本規格協会
太田康信『Excelで学ぶ企業ファイナンス』Ohmsha
寺田裕司『データを「見える化」するExcelデータ分析大辞典』C&R研究所
森崎初男『経済データの統計学』Ohmsha
浦井良幸・真美『多変量解析がわかる』技術評論社

授業計画

第1講 情報と統計分析
第2講 情報（データ）の集計、検定
第3講 情報の相関関係・分析
第4講 相関・回帰分析と予測
第5講 相関・回帰分析と予測
第6講 相関・回帰分析と予測
第7講 回帰分析と検定
第8講 回帰分析と検定
第9講 資本調達、返済計画と利子率計算
第10講 資本調達、返済計画と利子率計算
第11講 資産調達配分（線形計画）
第12講 資産調達配分（線形計画）
第13講 財務情報と損益分岐点
第14講 シナリオ分析・損益分岐情報
第15講 販売価格、費用分解と費用削減

授業形態（アクティブ・ラーニング）		
	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に講義課題を配布する。講義テーマに関連して課題を各2時間が必要とする。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義時は常時双方向で行っている。

実務経験の有無及び活用

備考

備考